



音楽運動



日本音楽協会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp

愛知県中央メーデーで演奏 「Goodbye overwork」「ひとりじゃないよ」



4月20日(土)、連合愛知の主催する第95回愛知県中央メーデーが愛知県名古屋市中区栄のエンゼル広場で開催され、3,150人の組合員が参加しました。

日音協はこのメーデーのテーマである「自分時間の充実! どうする休日?」にふさわしい音楽の演奏をという連合愛知の依頼を受け、愛知県内外の自治労組合員とその友人でバンドを結成して、式典スケジュールのど真ん中の「特別報告」として、「Goodbye overwork」(詩・曲=自治労第9回音楽活動家養成講座Aグループ)と「ひとりじゃないよ」(詩=堀内規美恵、曲=山口真)を演奏しました。

ステージに向かって左側から、ギターの春日井昭豊さん(岡崎市職員組合)、キーボードの松本敏之(日音協会長: 栃木県職員労働組合)、パーカッションの坂本裕二さん、ギターの山口真さん(自治労名古屋市労働組合)、ベースの西藤安彦さん(日音協: 守山市職員労働組合OB)です。

主催者にはたくさんのお褒めの言葉をいただき、すっかりいい気持ちになりました。はたらき過ぎにさよならする運動が労働者に広がるように、今後も力になれたらいいですね。

(松本敏之)



3,150名が結集した愛知県中央メーデー

復帰52年第47回沖縄平和行進 5月17日(金)~18日(土)

2024 日音協沖縄行動参加者

松本敏之(会長・茨城)
坂口美日(副会長・東京)
根本賢治(担当幹事・千葉)
森 理子(東京)
森 達哉(東京)
おだかずや(東京)
佐藤茂伸(東京)
佐藤 満(長野)

歌って行進。がんばって!!



中央メーデー、日音協テント前コンサート



スウィングセピアによるファンファーレ



日音協テント前でのコンサート

4月27日土曜日、代々木公園において、第95回メーデー中央大会が開催されました。28,800人が結集し、スウィングセピアのファンファーレで開会。一方、日音協ブースは会場企画の方のはからいで、陸橋脇に他のテントとは離れて用意していただいております。向かい側には休憩スペースが設けられています。

中央式典終了後はテント前コンサート。メーデー合唱団を皮切りに、メイウィンズ・狭石啓子・CANTUS・Rico&Tatsu・Piggies・ういみんが演奏しました。日本のうたごえ協議会の大熊啓さんも来訪くださり、メーデーの歴史に触れる歌などを披露。そして共同で進めている5・3憲法集会参加型企画の『HEIWAの鐘』を、都支部の仲間も加わって合唱しました。

およそ1時間半のコンサートでしたが、ドレスを着たコスプレアルトホルン奏者が飛び入りで音を添えたり、近くのブースや陸橋の上からも見ている人もいて、楽しんでいただけるコンサートになったと思います。(森 理子)



メイウィンズ



CANTUS



メーデー合唱団

戦争語る大切さ 合唱で知る

中学生 酒井崇行

(東京都 13)

僕は以前学校で、「HEIWAの鐘」という歌を合唱した。練習中、作詞者の思いや考えを調べてみる授業があった。

太平洋戦争の沖縄戦で、友や家族、周りの人を失った悲しみや、一度とこんなことは起こしてはならないとの思いをのせた歌で、戦後生まれの男性が作ったものだ、調べて知った。今も、ウクライナ戦争やイスラエル・パレスチナ紛争などたくさんの争いが世界で起きている。

日本では戦争を体験した人たちが少なくなってきた。どれだけ正確に戦争の真実を伝えるか、語り継ぐのが大切だと思ふ。戦争は「こわい」「かわいそう」と考える人が多いだろう。体験した人は「怖くはない。ただ生きるのに精いっぱいだった」と話していた。どんな状況でも、どんな時でも「生きる」ことが大切だ。合唱コンクールで1位はとれなかったが、戦争についていろいろ考えるいい機会になった。

【2024年4月23日 朝日新聞朝刊 声(Voice)の欄より転載】

Periodista第59回企画公演
怪談・奇談
みちのくむかすっこかたり

遠野物語の地・岩手の語り部が
あなたを「むかすっこ」の世界に
お招きします——

出演：神久保敬里（日本音楽協議会）
日時：5月11日15:00/19:00
（上演時間1時間）
会場：江古田兎亭
料金：一般2000円 学生1000円
小学生無料

ご予約：<https://www.quartet-online.net/ticket/periodista59>
お問合せ：periodista901@yahoo.co.jp



東京都支部のおだかずやです。

おだは毎月東京で演劇の公演をしているのですが、来月、岩手県支部から小笠原早苗さん（芸名：神久保敬里さん）をお招きして昔話の公演を行うことにしました。おだは企画・制作としての参加です。つまり（手前味噌ではありますが）日音協のネットワークを生かせばこういうこともできるんだということ。

小笠原さんと知り合ったのは、去年の新潟祭典でした。台風で予定していた演目ができず、急遽上演したモノローグ「或る男」をえらく気に入っていただきたらしく、交流会で彼女から声をかけてくれました。で、その時彼女が昔話の公演をしていると聞き、ずっと気になっていたというわけです。

今回思い切って打診してみた所、快諾してくれました。こういうことができるのが日音協のいい所だと思います。俺自身今年は長野県支部の新春ライブに参加させてもらい、気持ちよく即興芝居をすることができました。

なお日程は5月11日(土)の15:00と19:00の2回公演。場所は、東京の江古田の兎亭です。

<https://usagitei11.amebaownd.com/>

都支部の日程は配慮したのですが、何と中央の「若い会員の会」とかぶってしまい申し訳ありません。まあ若くない方で(笑)比較的近い方はぜひいらしてください。

そんなわけで、こんな公演ができることがわかり、変な話ですが、自分でも感動しています。音楽祭やブロック合宿のようなオフィシャルな形でなくても、自主的に全国レベルで交流を進めて行ければ、と思っています。

久しぶりの生演奏

4・9反核燃の日全国集会



4月6日(土)、4・9反核燃の日全国集会が青森市で開催されました。初めて室内開催となり、全国から500人超えの参加がありました。

いつもは屋外のPA設置などに汗を流していた日音協支部も、秋田の後藤さんのテコ入れにより、意を決して演奏することになりました。

演奏曲は、「あたりまえの地球」「よみがえれふるさと」「風車の唄」「核燃サイクルNO!」(トマホークNO!の替え歌)の4曲です。

演奏に夢中で、(モニターもなく)会場の雰囲気を感じることはできませんでしたが、主催者からは「やっぱり、うたこえがあれば、集会は盛り上がるな」と感謝されました。(佐藤康弘)



「南風(ふえーぬかじ)」⑥ 日音協沖縄行動秘話

沖縄県支部長 平良 昌史

日音協沖縄行動は、2010年に平和行進と普天間基地包囲行動に合わせて取り組まれました。そのときの沖音協の状況は、会長の宮良先生が亡くなられた後の会長不在が続き、活動が停滞している時期でした。

私は、那覇市職労の書記長として普天間基地包囲行動の任務のために、沖縄行動への参加も不十分でした。しかし、日音協の沖縄連帯行動の受け入れが不十分では良くないと思い、2011年の2回目の沖縄行動は、積極的な参加することを心に決め、沖音協の再建大会を行い、新しい体制で活動を開始しました。沖縄行動に、私と一緒に平和ガイドの活動をしている私鉄仲間2人も誘いました。

その仲間の感想は、『今回の平和行進は私にとって新しい視点を与えてくれました。全国組織の日音協が昨年からは、沖音協と連携し、5・15平和行進に参加協力をしているそうです。今回その顔合わせ会から前日の練習まで、平良さんの呼びかけで、参加させてもらいましたが…。顔合わせ会からなんとも異様な練習風景に驚きました。基地問題を初め、原発反対、そして平和を希求する歌・歌・歌。そしてそれを、じっくりと聞き比べている仲間たちの姿。私は、まるで新しい大陸を発見したかのように感動しました。そして気づいたら、平和ガイドの仲間たちへも声掛けをして、平和行進の当日、出発から途中の歓迎まで、日音協のみなさんと声を張り上げている私がいまいました。そして、何よりも平和行進団のみなさんが励ましてくれ、“目立って”いました。私たちも普段は「語りつくし会」として沖縄戦の実相を伝えるため、地道な活動をしているのですが、日音協のみなさんも地道な活動をなさっている事に、ある種共感しました。そして、「これはいつかコラボをしなければ!!」と感じました。』と書いていました。

沖縄問題を沖縄だけの問題にするのではなく、歌と平和を愛し行動する日音協の仲間と、これからも連携した活動を行ないます。



送り出し演奏



送り出し演奏

疲れたけど充実の沖縄 【沖縄行動を振り返って】

2011年5月

狭石利美(東京都支部)

昨年からはじめた日音協沖縄行動、行く予定が直前の骨折事故で入院してしまい、今回初参加でした。以前自治労都庁職で組織共闘を担当していた時に毎年6月23日を挟んで“沖縄反戦ツアー”を企画・募集し、引率していたので沖縄には特別な親近感があります。

さて沖縄行動ですが、成果はどうだったでしょうか。まず一つ目は沖音協の仲間(山城さん、嘉数さん、平良さん)とこれから沖音協に加わる(と信じています)であろう仲間(本村さん、新垣さん、大城さん)それから素敵な曲を創る宮城さんと親しくなれたことです。この人達とまた会えるということだけでも来年の沖縄行動が楽しみです。

二つ目、長いこと音楽運動をやってきて今頃こんなことを言うのはバカかと言われるそうですが、恥を忍んで言います。事前に集会で歌う“グッバイアメリカ”と“フェンスの中の沖縄”の楽譜が送られ、行く前に当たってみてはいたのですがいまいち好きになれないでいました。現地での参加者によるミニコンサートで山城さんがうたうのを聞いて特に“フェンスの中の沖縄”は好きになりました。楽譜だけではなく、いかに演奏が大切かということ再認識しました。

最後に集会和でモ行進での行動で感じたことを書いて終わります。事前に10曲を準備し、集会が始まる前に全曲を次々に歌いました。これはあのパターンでよかったと思います。

行進に入ってから、一曲が終わって次は何の曲にしようかと数秒、曲が決まると楽譜を開くのに数秒、そしてイントロに入るのに数秒と目の前のデモはどんどん通り過ぎるのに、その間音なしの状態が凄くもったいない気がしました。行進時の演奏は、デモ参加者にピッタリ来る曲を2~3曲絞こみ、曲順を決めておいて一曲終わったら間髪を入れずに(出来ればメドレーで)次の曲を演奏する、またこの曲は事前に暗譜をし、楽譜を見ないでデモ参加者の笑顔や手振りにしっかり応えながら演奏するとベストかなと思いました。

『どん行』3月号に投稿

滝田聡さんから

唱歌『ふるさと』は、作詞＝高野辰之／作曲＝岡野貞一。『文部省唱歌』とくくられていたいくつもの作品が、戦後の作者名を掘り起こす運動によってあきらかになった。ちなみに高野辰之にはほかに『春の小川』『春が来た』『朧月夜』『紅葉』などの作詞がある。ほくも『故郷(正式名称)』はあまり好きではなかった。「こころざしをはたして／いつの日にか帰らん」はまさに「立身出世」を指向している。

ところが、だ。
2001年5月、ハンセン病元患者たちが起こした国賠訴訟(国家賠償請求訴訟)が熊本地裁で勝訴、国が控訴を断念して判決が確定した。当時、この元患者たちの闘いに若干かかわったことがある。

岡山県瀬戸内市には長島という離島(1988年に橋が架かった)にふたつのハンセン病療養所がある。そこに幾度も足を運び元患者のみなさんと言葉を交わし、支援集会にも参加し、隔離政策の非情なありさまを知った。元患者たちが参加する集まりではおしまいに必ず『故郷』がうたわれた。

はじめは違和感があった。しかし療養所の園内には集会所やら教会やら立派な建物がいくつかある。そのひとつが納骨堂だ！死んでも故郷に帰れない、という隔離政策の象徴だ。「こころざしをはたして／いつの日にか帰らん」……望郷の想いに裏つけられた元患者たちの歌声は、今でも僕の心を打つ。

滝田十和男さんの詩に作曲

青森市にも松ヶ丘保養園がある。幼くしてハンセン病を患い、郡山から青森市の郊外に隔離され、闘病生活を送った滝田十和男さん(1921年生まれ)。親交のあった藤川ツトムさんは、1992年、滝田さんの詩に各界の多くの方が曲をつけた作曲集『木漏れ陽のうた』(全92曲)を発行した。

滝田さんは「この一冊が、どんな厳しい評価を受けようとも、それは、私が地球上に存在したという証明になり、また、一曲でも、誰かが歌って下さる方があれば、それで十分に私の満足感が得られるのです。」と言っている。(佐藤)



ハンセン病療養所の納骨堂

故郷(ふるさと)

高野辰之 作詞
岡野貞一 作曲

- うさぎ追いしかの山
小鮒(こぶな) つりしかの川
夢(ゆめ) はいまも めぐりて
忘(わす) れがたき故郷(ふるさと)
- いかにいます父母(ちちはは)
恙(つつが) なしや友(とも) がき
雨に風につけても
想いいずる故郷
- こころざしを果(はた) して
いつの日にか帰らん
山はあおき 故郷
水は清(きよ) き故郷

石ころのうた

詩：滝田十和男(たきた とわお)

負うた石より負われた石の
重い心のあけくれに
よくぞ今日まで耐えてきた
思えば遠いばら道
青いつぶての石ころが
くにを逐われたわけじゃない

生きて還れぬところだと
人に言われて来て見れば
いくさに行った人もある
生きて帰った人もいる
嫁いで行った人もいる
なんでなんでと言うまいぞ

それより冷たい目を逃れ
夜にまぎれて家を出て
歩けぬ父をリヤカーに
乗せて歩いた駅までの
夜道の峠二十キロ
ようやく朝の日が射して

石のかなしみ知る石の
心のぬくみあればこそ
父に死なれて一人でも
生きてこれたは世の隅に
吹き寄せられた石ころが
流れの底に身をひそめ

下り一番改札を
無事にくぐってひたすらに
父と二人の汽車の旅
北のさいはて青森に
たどり着いての雪ぐらし
なんで今更おもいだす

川瀬の歌をききながら
のぞみすてずにがんばった
遠い昔がなつかしい
津軽に病んで五十年
相寄る心たすさえて
扶けはげまし杖となり

石にこころがあるならば
花は咲かねど水苔の
みどり目に沁む夏もくる



イラストは『木漏れ陽のうた』より

歌の力が物語るもの 129

菜萁坂つた行動 4/12 (5008回) 報告 R i c o

【参加者】スーさん、イサさん、守屋さん、鈴木さん、かおるさん、Mさん(初参加)、なべさん、達哉、森、計9名

風頃には雨模様だったが、夕方には青空が広がり地面も乾いた。18時を過ぎてまだまだ空は明るい。準備をしていると、経産省前抗議行動を終えた仲間たちが菜萁坂を上ってきた。スーさんが前回の『路上より愛を込めて』の歌詞を印刷してきてくれたので、早速音取りをする。スマホのボイスレコーダーって便利。

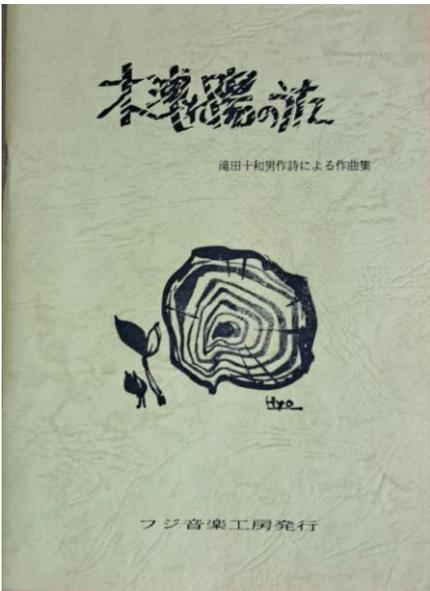
そんなことをしていると、端にいたかおるさんに話しかけている女性がいた。初参加者！東京新聞の記事を見て、菜萁坂に来る機会を待っていたという。千葉にお住まいのMさん。国会周辺は初めてで、「迷いながら来ましたが」とのこと。なんと嬉しい！5000回記念の時に作った歌詞カードをお渡ししたので、今日はそれに沿って歌うことにした。鈴木さんが気をまわして、歌いやすそうな替え歌から選んだり、Mさんの歌詞カードを覗いて、掲載場所を教えてあげていた。『あなたに届け』『子供らの明日のために』『そんな世界が一番』。

菜萁坂の仲間が詩を作っていることも伝えながら、歌いなじんできたところで、私たちの場所のテーマソングともいえる『あたりまえの地球』を歌う。ふと見るとかおるさんが踊るように手話をつけてくれている。かおるさんのレパートリーはどんどん増えているみたい。そのあとの『私たちの暮らしは私たちが決める』も手話がついていた。『明日を殺すな』『メッセージ』とフレーズの短い歌の後、守屋さん中心に『水に流すな』『ああ福島』、福島つながりで『フクシマをくり返すな』を歌う。『D.O. 廃炉』にも挑戦。何が挑戦って、今日は周平さんが不在で、しっかり諦んでいる人がいないのだ。薄暗い中、街灯の明かりと手持ちの懐中電灯頼りに歌詞カードの原発名を追って

いく。「ちやちや」になって、歌い終わるとみんな大笑ってしまった。そして歌は沖縄へ。うるま市の自衛隊訓練場建設が白紙に戻されたニュースをみんな喜んで喜んだ。保革を超えた反対運動の勝利。これがほかの事々にも良いきっかけになればと願う。『ふるさと沖縄』『ジユゴンがすむ海』などなど。Mさんは介護をしながら活動らしきことはしてこなかったという。菜萁坂は遠くもあり、「頻繁には難しいけれど、また来たいです」と言ってくれました。温かくなるし、日も長くなる。またぜひ、いらしてほしい。最後に『原子力発電NO!』を歌ったとき、みんなと一緒に「NO!」とこぶしを突き出していた。新しい仲間、これからも一緒にうたいたい。

水道橋だより

▼窪田聡さんから手紙をいただいた(5面参照)。ありがたく読ませていただいた。そういえば、藤川ツトムさんもハンセン病の療養所の方と親交があり本も出していたことを思い出し、探してみたら比較的早く見つかった。▼改めて読み返してみたら、当時感じなかった思いが湧いてきた。▼藤川さんはあとがきで、『滝田さんは、目も不自由だったし、指も不自由だった。その滝田さんは「社会から隔離され、差別されたというよりは、区別された人生だった。テレビだけが私たちが社会に触れる唯一の機会なんですよ」と言った。必死に社会に係わろうとする滝田さんの目は、私たちよりももっとシビアな社会観をもっていたし、純粹だった。』と述べている。(佐藤)



どん行

(178)

飯島貞親

闘機輸出解禁も、円安と物価高もこの国で起きている国民生活を苦しめる政策は、安倍政権の悪しき遺産に他ならない。

▼「機能性表示食品」なるものが騒ぎになっている。その大元の小林製薬は、基準の厳しい医薬品ではなく機能性表示食品などを多品種、短期に発売し続け、今年の健康経営優良法人に表彰されている▼この食品は、一応は評価基準を列記しているもののトクホのように面倒なことを言わずに、事業者が書類上でそれなりにきちんとして申請を出せばほとんど認めるというのが根本趣旨▼「脂肪を減らす」「高めの血圧を下げる」「疲労感を軽減」などさまざまな機能性を表示できる保健機能食品の一つで、2015年の食品表示法施行に伴っている▼健康の根幹に関わる領域で、このような加減な基準の溶解がなせられたのか▼第2次安倍政権が断行した「規制緩和による経済成長」という新自由主義まがいの政策の目玉の一つだったからであり、2013年6月の「成長戦略第3弾・規制改革実施計画」の中で「トクホの認定を受けなければ効果を記載できないのでは金も時間もかかり、中小企業の成長などのチャンスが閉ざされる」と宣言している▼自民党の裏金隠匿システムの闇も、憲法9条を無視する戦闘機輸出解禁も、